



園芸作物栽培に関する

これからの対策と Q&A

晩秋期の野菜管理

気象庁はラニーニャ現象が発生している可能性が高いとしています。これはインドネシア近海の海水温が高くなっていて台風のもとである積乱雲の発生が多くなり、日本では今冬にかけて日照量は少なく気温は高めです。

降水量も多めになると予報しております。今年には害虫の発生は極めて多い年となっております。防除の手を抜きますとまだまだ害虫の被害に悩まされそうです。



大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

◎晩秋期の管理ポイント

○害虫防除
今月半ばから秋野菜の収穫ピークとなりますが、害虫の発生は当面収まりそうにありません。使用する農薬も収穫までの猶予期間の短いものを選択する必要がありますので、下表を参考としてみてください。

◎追肥と病害防除

生育が思わしくないと追肥を過剰にされる方がおりますが、今年は先月の降雨量が多かったため根腐れによる生育不良が多くみられています。手当としては追肥量をすくなくめにして、畝間の土をさらえ畝の上に盛るなど圃場の排水促進を図りましょう。

また、根こぶ病も多々みられています。萎れが目立つ場合は疑わしい株を掘り上げて根の状態を確認しましょう。さらに早時き、早植えの秋野菜に軟腐病の蔓延が見られています。排水の良い畑や粘土質の強い畑では発生が助長されます。本病は雨による滞水で拡がりますので被書株は早めに抜き取り圃場外に出して処分してください。

害虫防除剤	対象害虫			使用倍率	対象作物			
	アオムシ	コナガ	ヨトウムシ		大根	白菜	キャベツ	フロッコリー
コテツフロアブル	○	○	○	2000	○14	○前	○前	○前
アファーム乳剤	○	○	○	1000~2000	○7	○7	○前	○3
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	2000~4000	○7	○前	○前	○前
アクセルフロアブル	○	○	○	1000~2000	○7	○前	○前	○前
プレバゾンフロアブル	○	○	○	2000	○前	○前	○前	○前

対象作物欄の数字は収穫前日数を表す。(○14は収穫前14日まで。○前は収穫前日(24時間前)まで)

◆軟腐病について

軟腐病の原因は「細菌」で気温温暖で湿気の多い条件、特に圃場滞水が発生すると発病します。殆どの野菜で見られ、主に地際部から腐って溶けたようになり悪臭を放ちます。



大根の軟腐病



白菜の軟腐病

病原細菌は傷口から侵入するので、害虫の食害痕や台風などで傷みが発生した後に蔓延しやすくなります。特に元肥や追肥を多く施用した圃場では発生が激しくなります。
細菌性の病気は薬剤が効きにくいので予防に気を使うことが重要です。(予防薬剤は先月号を参照してください。)(予防策としては害虫の予防と駆除。土壌の水はけを良くする。日当たり風通しを良くする。予防薬を散布する。発病してしまった株はすぐに抜き取り処分する必要があります。)

◎ハウスの管理と軟弱野菜類の播種

ハウスでは温度管理が難しい時期となってきます。少しでも温かくしようと換気を控えてしまうと、晴天の日中は40℃近くに達してしまいます。また夜間は閉め切ることが多くなりますが、閉め切ることによって空気が淀み、湿度が上がるため灰色カビ病をはじめとする病害の発生が多くなります。

固くなってきたりします。抽根して地上部に出ている部分が多いと霜や風などで傷みややすいで土寄せをおこなってください。

○フロッコリー

収穫が遅れてくると寒さで花蕾が紫色に変色するものがあります。品質的に問題はありませんが、降霜によって花蕾が黒変する場合がありますので降霜・降霰の時期になったらヘタがけなどで花蕾を守りましょう。

◎越冬野菜の定植

11月はタマネギ、春キャベツ、ハクサイ、ソラマメの定植とエンドウの播種月となります。いずれも積雪期を経ますので圃場の排水対策は大変重要です。

○タマネギ

水が停滞する圃場では腐る株が多くなりますので日当たり、排水が良く雪の深くない場所を選んでください。定植適期は、11月10日前後です。早く植えると葱坊主が立ちやすくなります。植え付けは、畝幅1.1~1.0m(天幅80cm)とし、条間20cm(4条植え)、株間12cm程度とします。

深植えは禁物です。葉の白い部分がやや見えるくらいで植え付けましょう。根が元気な若苗を定植し植え傷みをさせないように気をつけます。基肥は1aで石灰10~15kg、窒素5kg、リン5kg、カリ5kgを標準とし地力によって加減します。

年内の追肥は行いません。無マルチ栽培では雑草の発生状況を見て随時中耕除草します。雑草対策にはマルチ栽培がお勧めですが、露地栽培の場合はフロロパーPCとこの除草剤をお勧めします。

○ソラマメ

植え付けは11月中旬頃です。直播は11月始め頃となります。早植えすると越冬能力が弱くなり腐ってしまいます。滞水に弱いので25cm以上の高畝とし、畝幅は70~80cm、株間35~40cmの1条植えが基本です。基肥は1aあたり石灰15kg、窒素5kg、リン5kg、カリ5kg程度とします。

○エンドウ

施肥はソラマメに準じます。移植は嫌うので直播が基本ですが補植用はいくらかポットに播いておきます。播種時期は11月中旬頃です。植え付け間隔はソラマメよりやや詰めます。間引きは草丈7~8cmの頃に生育の悪いものを間引きの本立ちに行います。

です。ハウスの夜間閉め切りは最低温度が15℃未満の日としますが、日中は25℃を目安に換気に努め湿度の低下を図りましょう。灌水は少なめにし必ず午前中に行いましょう。通路にモミガラ、マルチなどを敷くことは湿気を抑えるのに有効です。さらにハウスの隅などに生えている雑草は病害虫の越冬場所となるので抜き取り処分しておきましょう。

◎軟弱野菜類の播種

本年はアブラムシの発生が目立っておりますので早めの防除を心がけましょう。また湿度が高く推移していることでスト病、菌核病、白斑病、白サビ病などの発生が懸念されます。密植とならないように管理するとともに、灌水も午前中におこなうようにしましょう。また、ハウレンソウはケナガコナダニの発生時期に入りますので播種前にネマモール粒剤の施用などを心がけてください。



ケナガコナダニの食害

◎イモ類の収穫と上手な貯蔵

サツマイモの収穫盛期は10月ですが、11月に入るとサツマイモの収穫最盛期を迎えます。サツマイモの立っている莖が2本程度となったら収穫適期です。天気の良い日に掘り上げましょう。特にサツマイモは株を良く乾かすことが肝要です。サツマイモもサツマイモも保存するにはある程度の温度が必要で、温度的にはサツマイモは最低8℃、サツマイモは最低12℃を目安に保存します。室内で保管しますが、ビニール袋や発泡スチロールなど空気を通さない容器は不適です。段ボール箱を利用しましょう。

◎秋野菜の収穫

○キャベツ
収穫期に入っていると降雪などにより裂球が誘発されます。降雪の恐れが出てきたら寒冷紗などのベタがけで被害を回避します。

○ハクサイ

寒さ当たりや降雪などで球の頂部などが痛みます。11月下旬以降は外葉を結束し球を守ります。

○ダイコン

播種から60~65日後が収穫の目安です。遅くなるとスが入ってきたり、